令和4年産水稲栽培に向けて

しましょう。

いよいよ本格的な田植えシーズンが始まります。田植えの準備は順調に進んでいますか? した品質・収量を確保しましょう。 今回は、田植え前後 実施

の作業およびトラクタ 一事故防止について紹介します。

りすぎてしまい、

田植えのポイント

が深いと水温が上がらず活着できなかった ねて苗の病気につながります。また、水位 と田植機に泥がついてしまい、 することがポイントです。水位が浅すぎる 田植え作業時は、水位を1~2㎝に調整 走行中には

作業を行いましょう。 起作業で田面の高低を修正してから代かき す。また、「ゆいっと」(3月号)に掲載し 作業の効率化や植え付けの精度が向上しま た除草効果にも大きく影響しますので、耕 代かき作業前の入水量は、土が7~8割 代かき作業を丁寧にすることで、田植え

代かきのポイント

り、除草剤の影響を受けたりします。

田植え作業時の適温は、日平均気温が中

③ほ場の出入口の傾斜方向に対して平行に

て、カーブを曲がりましょう。

侵入しましょう。

◎道路走行時の左右ブレーキ連結

差し込むことができなくなります。反対 4㎞のスピードで行います。スピードが速 すぎると土を細かく砕くことができませ を防ぐことができます。 浅水代かきにより落水による肥料等の流亡 見える程度の浅水代かきがおすすめです。 ん。土が細かくなっていないと苗をうまく また、トラクターの速度は、時速2~

田面の硬さに注意 因となりますので ず、浮き苗等の原 植付けが安定せ 田面が柔らかくて と、土が細かくな にスピードが遅い

を行い、分けつを促しましょう。分けつは、 活着後は、日照の多い日や温暖な日(気温 を高めるため水深を4㎝程度とします。 の日や強風の日は作業を見合わせましょう。 20℃以上の日に行い、最高気温が12℃以下 苗で14℃以上です。できれば最高気温が で促進されるので、入水は水温の低い早朝 日中と夜間の温度差(水温差)が大きい環境 い日(気温14℃以下)や強風の日は深水管理 15℃以上)は浅水で水温・地温を高め、寒 に短時間で行いましょう。 田植え後~苗の活着までは、保温効果

分に確認しましょう。 れます。特に苗箱剤と除草剤の施薬は、十 苗箱施用剤と除草剤の間違い等が見受けら とが多く、苗の取り違え(品種の間違い)や 注意点)田植え作業時は、複数名で行うこ

★トラクター事故防止について

防ぐためにも作業前に以下の確認を行いま は、トラクター乗車中の事故です。事故を 農作業中事故の死亡事故の要因第1位

路肩に気をつけよう

①路肩がわかるように草 ほ場や農道で発生していることから路肩は 危険がいっぱいです。 刈りを行い、危険な場 転倒、転落による死亡事故のほとんどが、 所には目印を立てま



しょう。

行いましょう。 点検前チェック項目 作業機を上げる。

生しています。 れるとほ場の出入りや道路走行時に、片ブ くので小回りが便利ですが、連結操作を忘 レーキを誤操作して転倒する事故が多く発 トラクターのブレーキは、 左右別々に利

ましょう。 ①~⑤の走行前にはブレーキの連結をし

⑤トラック等への積込み時 ④畦を乗り越える時 ③傾斜地での作業時 ①ほ場へ出入りする時 ②道路を走行する時

◎作業機械の下は危険

みたくなりますが、非常に危険です。安全 がすると、慌てて機械の中や下をのぞき込 な場所で安全な状態にしてから点検調整を トラクター運転作業中に作業機から異音

昇降部の油圧ロックを掛ける。(一部 と自然に油圧が下がるので注意 トラクターでは、エンジンを止める

駐車ブレーキを掛ける。

エンジンを切る。 ブロック等を作業機の下に入れ支え にする。

2022.4 th 175 6 Vol. 12